教職員の皆様へ

教育センターだより【７号】
令和８年１０月１３日　発行

創る

〒518−0485
三重県名張市百合が丘西５番町 25 番地

◇事務室・教育よろず相談　１F
Tel 0595-64-8801
E-mail: kyouiku-ce@city.nabari.lg.jp
minakuru01@nabari-mie.ed.jp

◇教育支援センター(さくら教室)　2F
Tel 0595-63-7830
E-mail: sakura@nabari-mie.ed.jp

◇学校ボランティア室　１F
Tel 0595-64-8864

教育センターホームページ http://www.nabari-mie.ed.jp/minakuru/
教育センターホームページ QR コード

第４回　グループ研究部会　から！

今年度も、10の大グループから派生した全28の小グループで研究が行われています。第3回の夏の研究部会では、講師の先生をお招きしてお話を聞いたり、フィールドワークを行ったりと各部会で研修を深めている様子が伝わってきました。2学期に入り、5つのグループで公開授業が予定されています。



報告　**10月7日(水)のグループ研究部会で「音楽」の公開授業が行われました。**

第4回は、百合が丘小学校3年音楽担当である西浜千恵子先生の公開授業でした。
「どんな歌い方をすると、『日本一のふじ山』だと伝わるかな？」という先生の発問に、譜面を前に子どもたちは協力して強弱を考えたあと、みんなで考えた歌い方を活かして楽しそうに歌っていました。







☆百合が丘小学校の ５ 年生は、6月30日の課題研修講座「合唱指導」において講師の宮﨑恵美子先生から１時間の歌唱指導を受けました。宮﨑先生の魔法にかけられたかのように、みるみる声が大きくなり、そして楽しそうに歌う子どもたちの変容に、指導者として宮﨑先生から多くのことを学びました。

☆６月３０日（火）に開催しました課題研修「合唱指導」より
【合唱指導】百合が丘小学校　５年生　　講師：宮﨑　恵美子（赤目中学校）



子どもたちにかける言葉がけと、視覚的な支援の方法が勉強になりました。音楽の授業において、メリハリの部分や大きな声の出し方を悩んでいましたが、子どもたち同士の関係性作りを授業内でしていくことで、やる気いっぱいの授業が展開できるようになると感じました。肩を叩き、「聞こえてるよ」の声かけは、とても素敵だと思いました。　　［参加者の声］

☆令和8年度プロジェクト研究進捗報告！ (Vol.1)
「対話のレジリエンスを育む小中一貫英語教育 ～伝え合うための言語活動の工夫～」

８月２６日（水）に第２回プロジェクト研究会議を開催しました。「対話のレジリエンスを育む小中一貫英語教育～伝え合うための言語活動の工夫～」をテーマのもと、小中接続に焦点を当てた教材を作り、会議でメンバーと共有し、２学期からの実践に活かしていくこととなりました。

○坂本研修員による小学校での授業実践（9月）【薦原小学校5年･6年】

1. アルファベットヒーローになろう！
2. ローマ字よ、もう一度！
　～ヘボン式ローマ字に出会おう！～
3. フォニックスの世界へ行こう！
4. 文の組み立てに挑戦！

小中接続のための

☆3つの手立て☆

①小学校英語における「書くこと」の強化
②小学校英語における文構造の理解への挑戦
③中学校における「対話」のある授業づくりの再考

上記の仮説をもとに、小学校では仮設①と②に関する教材を作成し授業を進めました。

※今回は、１と２の授業の様子を紹介します。



１．アルファベットヒーローになろう！

大文字・小文字を４線にあわせて正しく書けるかを「アルファベットかくれんぼ」で確認したあと、不規則に並ぶスペリングをすばやく記述する「１００ますアルファベット」を実施しました。楽しみながら反復できる帯活動の提案です。


RSプロジェクト研究【アルファベット完全マスターへの道】
アルファベットヒーローになろう！ AからZまで、キミの大冒険がはじまる！
100ますアルファベット①
「時計」アプリの「ストップウォッチ」と「アルファベット表」がキミのアイテムだ！
●次のアルファベットをすべて小文字で書きましょう。
( )月( )日 冒険者の名前[ ]
※アルファベット表を(全部見た ・ 時々見た ・ 見なかった)
① 全部書き終えたら、ストップウォッチを止めよう！ かかった時間を記録しよう！
② 自分で答え合わせをしよう！ きちんと書けた数を正答率に記録しよう！
時間 分 秒
正答率 %
中学生になるまでにどれだけ正確に書けるかな？そしてどれだけ時間を縮められるかな？



２．ローマ字よ、もう一度！

令和 7 年度 70 年ぶりにローマ字表記についての改定があり、これまでの訓令式ローマ字から、ヘボン式ローマ字が基本とするルールになりました。ローマ字は英語の音を理解する助けとなり、また日常生活で触れる機会が多いので、英語学習の基盤として重要であると考えます。日常生活のなかにあるヘボン式ローマ字を読んだあと、こちらも「100 ますアルファベット」のなかにローマ字版があり、反復練習できる帯活動です。

（※次回は、３と４の授業の様子を紹介します。）

お知らせ

教育センターだより６号（９月４日発行）の**「今後の研修予定」**で、
「若手教員スキルアップ研修講座」の**「特別支援教育②」の日程が２月９日（火）に変更となりました。**